

正誤表

頁	誤	正
P.10 5行目	図 1.3.3	図 1.3.1
P.16 37行目	(部材、置、システム)	(部材、装置、システム)
P.21 表 2.2.1	Sv=0.8m/s 以上 VE=1.2m/s 以上	Sv=0.16m/s 以上 VE=0.24m/s 以上
P.33 31行目	清算振動解析	精算振動解析
P.35 14行目	低降伏点鋼	極低降伏点鋼
P.37 6行目	「表 2.3.4 各部材・装置のグレードのまとめ」に示す	免震構造設計マニュアル「表 3.2.1 の免震部材の終局限界・安全率のまとめ」に示す
P.37 7行目	SC-A,SC-B,SC-C	SI-A,SI-B,SI-C
P.38 9行目	「応答制御機構の終局限界および安全率」に示されている。	「表 4.3.1 エネルギーの吸収部材・装置の終局限界・安全率」に示されている。
P.41 8行目	2章において終局限界を安全率で除すことにより設定した目標値	免震構造エネルギー・吸収機構設計マニュアルに定める終局限界を安全率で除すことにより設定した目標値
P.47 13行目	7.1 に示す	7.1.1 に示す
P.48 3行目	新藤に関する	振動に関する
P.49 14行目	中間階免震度が考えられる	中間階免震が考えられる
P.73 11行目	安定した復元力	安定した復元力
P.76 7行目	応答制御構造設計法「2.3 性能グレードと安全率」	3.2 目標性能
P.80 9行目	絵変形に伴う	変形に伴う
P.88 13行目	低下を横領する	低下を考慮する

頁	誤	正
P.98 15行目	A4-EW1-3A を除き	OSKH02 AV を除き
P.98 16行目	A4-EW1-3A は周期 6 秒付近では	OSKH02 AV は周期 6 秒付近では
P.98 18行目	AIC003 の $S_V$ は	AIC003 の $S_E$ は
P.104 5行目	上町段層波以外は 20~30cm 程度だが、 上町段層波は 57cm 程度と	上町断層波以外は 20~30cm 程度だが、 上町断層波は 57cm 程度と
P.105 4行目	SI-C の安全率 1.2 を	SI-C の安全率 1.3 を
P.106 表 6.1	別紙 1 による	別紙 1 による
P.101 下から 2 行目	永年変化などにより	経年変化などにより
P.116 最下行	小槻 (清水建設)	山本 (清水建設)
P.119 下から 9 行目	・ c	削除
P.143 3行目	「2.3 性能グレードと限界値」	「2.3 性能グレードと安全率」
P.143 8行目	「2.2 限界評価のための荷重レベル」	「2.2 性能評価のための荷重レベル」
P.143 16行目	「2.3 性能グレードと限界値」	「2.3 性能グレードと安全率」
P.148 欄外	鋼構造物の疲労損設計指針	鋼構造物の疲労設計指針
P.148 12行目	繰返し回数とエネルギー吸収部材	繰返し回数 $n_i$ とエネルギー吸収部材
P.155 17行目	座屈拘束ブレース	座屈拘束ブレース型
P.163 表 6.2.1	別紙 2 による	別紙 2 による
P.166 9行目	工法や使用方法が新奇で過去に	工法や使用方法が新規で過去に
P.188 1行目	鋼材ダンパーダンパーのモデル化	鋼材ダンパーのモデル化

**表 6.1 応答制御構造の目標性能表 (レベル 2)**

			目標 グレード*	性能 グレード*	L-2 地震動		
					目標値	応答値	
標準 3波・ 告示波	上部 構造	最大加速度(cm/s <sup>2</sup> )	—	—	—	231	
		最大層間変形角	SC-A	SC-A	1/150 $\geq$	1/335	
		塑性率	SC-A	SC-A	1.5 $\geq$	0.64	
	免震 部材	積層ゴム支承	最小面圧 (N/mm <sup>2</sup> )	SI-C	SI-A	-1.0 (1.0)	引張なし
			最大面圧 (N/mm <sup>2</sup> )	SI-A	SI-A	20 (1.0)	14.3 (1.4)
			変形 (mm)	SI-C	SI-A	644 (1.2)	309 (2.08)
	免震層のクリアランス		SI-C	SI-A	666 (1.2)	309 (2.58)	
サイト 波	上部 構造	最大加速度(cm/s <sup>2</sup> )	—	—	—	253	
		最大層間変形角	SC-A	SC-A	1/150 $\geq$	1/250	
		塑性率	SC-A	SC-A	1.5 $\geq$	0.96	
	免震 部材	積層ゴム支承	最小面圧 (N/mm <sup>2</sup> )	SI-C	SI-C	-1.0 (1.0)	-0.66 (1.51)
			最大面圧 (N/mm <sup>2</sup> )	SI-A	SI-A	19.0 (1.0)	15.2 (1.25)
			変形 (mm)	SI-C	-	628 (1.2)	565 (1.11)
	免震層のクリアランス		SI-C	SI-B	666 (1.2)	565 (1.41)	

注 ( )内は限界性能に対する安全率で示している。

**表 6.1 応答制御構造の目標性能表 (レベル 2)**

			目標 グレード*	性能 グレード*	L-2 地震動		
					目標値	応答値	
標準 3波・ 告示波	上部 構造	最大加速度(cm/s <sup>2</sup> )	—	—	—	231	
		最大層間変形角	SC-A	SC-A	1/150 $\geq$	1/335	
		塑性率	SC-A	SC-A	1.5 $\geq$	0.64	
	免震 部材	積層ゴム支承	最小面圧 (N/mm <sup>2</sup> )	SI-C	SI-A	-1.0 (1.0)	引張なし
			最大面圧 (N/mm <sup>2</sup> )	SI-A	SI-A	20 (1.0)	14.3 (1.4)
			変形 (mm)	SI-C	SI-A	644 <b>(1.3)</b>	309 (2.08)
	免震層のクリアランス		SI-C	SI-A	666 <b>(1.0)</b>	309 (2.58)	
サイト 波	上部 構造	最大加速度(cm/s <sup>2</sup> )	—	—	—	253	
		最大層間変形角	SC-A	SC-A	1/150 $\geq$	1/250	
		塑性率	SC-A	SC-A	1.5 $\geq$	0.96	
	免震 部材	積層ゴム支承	最小面圧 (N/mm <sup>2</sup> )	SI-C	SI-C	-1.0 (1.0)	-0.66 (1.51)
			最大面圧 (N/mm <sup>2</sup> )	SI-A	SI-A	19.0 (1.0)	15.2 (1.25)
			変形 (mm)	SI-C	-	628 <b>(1.3)</b>	565 (1.11)
	免震層のクリアランス		SI-C	SI-B	666 <b>(1.0)</b>	565 (1.41)	

注 ( )内は限界性能に対する安全率で示している。

誤

表 6.2.1 性能表示の表示例 (エネルギー吸収機構/鋼製弾塑性ダンパー)

		グ レード	L-1		L-2	
			目標値	応答値	目標値	応答値
建物	最大層間変形角	SC-A	$\leq 1/300$		$\leq 1/150$	
	最大加速度 ( $\text{cm/s}^2$ )		250		500	
構造	塑性率	SC-A	$\leq 1.0$		$\leq 2.0$	
	部材耐力	SC-B	短期許容応 力度以下		弾性限耐力 以下	
鋼製弾塑性ダンパー	最大水平変形 (安全率)	DP-A			1.5<	
	最大塑性率	—	$\mu < 2$		$\mu < 4$	
	エネルギー吸収 量	DP-A	$\eta < 100$		$\eta < 400$	
オイルダンパー	最大水平変形 (安全率)	DP-A			1.5<	
	最大速度 (安全率)	DP-A			1.5<	
	エネルギー吸収 量	DP-A			$\Delta$	

正

表 6.2.1 性能表示の表示例 (エネルギー吸収機構/鋼製弾塑性ダンパー、オイルダンパー)

		グ レード	L-1		L-2	
			目標値	応答値	目標値	応答値
建物	最大層間変形角	SC-A	$\leq 1/300$		$\leq 1/150$	
	最大加速度 ( $\text{cm/s}^2$ )	—	$\leq 250$		$\leq 500$	
構造	塑性率	SC-A	$\leq 1.0$		$\leq 2.0$	
	部材耐力	—	短期許容応 力度以下		弾性限耐力 以下	
鋼製弾塑性ダンパー	最大水平変形 (安全率)	DP-A	—		安全率 1.5<	
	最大塑性率	—	$\mu < 2$		$\mu < 4$	
	エネルギー吸収 量	DP-A	—		安全率 4.0<	
オイルダンパー	最大水平変形 (安全率)	DP-A	—		安全率 1.5<	
	最大速度 (安全率)	DP-A	—		安全率 1.5<	
	エネルギー吸収 量	DP-A	—		安全率 2.0<	